

季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOI NOMORI MUSEUM

第10号

(2013年7月)

サマナイトミュージアム

●出雲弥生の森の夏

★8月11日(日)

出雲市の花火大会が大津神立河川敷公園であります。

出雲弥生の森博物館と2号墓も夜8時まで開館を延長して皆さまをお出迎えいたします。

特別展も開催中です。この機会にぜひ、お立ち寄りください。

★夏休み子ども体験教室

★8月18日(日) 10時～12時

◆内容…博物館で育てた藍の生葉を摘んで、ハンカチを染めてみよう!

◆場所…たいけん学習室

◆参加費…無料

◆定員…25名

◆持ってくるもの…汚れても良い服装、エプロン、帽子、タオル

●クイズスタンプラリー

弥生ブロンズネットワーク

4館連携事業

【古代出雲歴史博物館】

【荒神谷博物館】

【加茂岩倉遺跡ガイドダンス】

【出雲弥生の森博物館】

◆期間…7月12日～9月9日

◆4館のスタンプを集めると4館缶キーホルダーを!

抽選で「勇者の逸品」を!

○4館どれかのスタンプがあると、他の館の観覧料を割引き!

※他の割引きとの併用はできません。

2013年 特別展

「もう一つの出雲神話」

—中世の鰐淵寺と出雲大社—

7月20日(土)～9月9日(月)



【観覧料500円(高校生以下無料)】

●特別展関連講座

▼7月20日(土)

「中世の出雲大社と鰐淵寺」

【講師】井上 寛司 氏

(島根大学名誉教授)

出雲大社と鰐淵寺の関係に迫ります。

▼8月4日(日)

「神話学からみた中世出雲神話」

【講師】斎藤 英喜 氏

(佛敎大学教授)

中世に生まれた独特の神話世界をお話しします。

▼8月24日(土)

「『出雲国風土記』と中世出雲神話」

【講師】高橋 周

(当館 職員)

中世出雲の人々は「風土記」を知っていたのか。その謎に迫ります。

右の講座はいずれも

●時間 14時～16時

●聴講料 無料

●定員 80名

講座の受講には事前申込みが必要です。電話・FAX・メール等でお申し込みください。

●[発掘調査速報]

【上塩治横穴墓群】

Part 2

8月26日(月)まで延長しました。

★前回の資料に加え、新たに3D測量による映像や、出土品のX線写真を展示します。

特集 研究ノート

2013年 特別展

「もう一つの出雲神話」

―中世の鰐淵寺と出雲大社―

「出雲神話」といえば、『古事記』『出雲国風土記』といった古代の書物に記された出雲を舞台とする神話を思い浮かべる人が多いでしょう。しかし、中世（鎌倉・戦国時代）にかけての出雲では、「もう一つの神話」が語られています。

その神話とは、インドの靈鷲山りょうじゆせんの一部が崩れて漂流し、日本に流れ着いたところをスサノヲが築き固めたというものです。それが「浮浪山」と呼ばれる現在の島根半島の由縁であり、「杵築」の地名の由来です。古くは鎌倉時代の鰐淵寺文書に記され、その後三〇〇年以上にわたって、出雲国内外の各地で語られました。

古代の「国引き神話」とよく似ていますが、古代の神話が朝鮮半島や隠岐、能登半島といった日本海域を舞台としたのに対し、中世の神話はインドの靈鷲山の一部が

流れ着きます。靈鷲山とは、シヤカが法華経を説いたとされる仏教の聖地です。実は、この靈鷲山が由来となる話は、中世出雲の神話だけではありません。中世の比叡山延暦寺にも、靈鷲山の南東の隅が欠けて飛来したものが中国の天台で、さらにその北東の隅が欠けて飛来したものが比叡山とする話が伝わっていました。そして、蔵王信仰の本拠である奈良の金峯山にも、靈鷲山あるいは天台山からの飛来伝承が伝わりました。

中世の鰐淵寺は出雲国での蔵王信仰の拠点として、また、比叡山の末寺として位置付けられ、比叡山と金峯山は鰐淵寺と密接な関係を持っていました。つまり、「もう一つの出雲神話」の成立には「浮浪山」鰐淵寺の僧が関わった可能性が高いのです。

そして、「もう一つの出雲神話」の主役は、漂流してきた山の一部を築き固めたスサノヲです。中世は『日本書紀』などの研究が盛んに行われた時代で、スサノヲは「荒ぶる神」から「国家の守護神」へと崇められました。その中で、出雲大社の祭神はオオクニヌシ（オ

オナムチ）からスサノヲへと変わるのです。そして、南北朝時代に「出雲国造が朝廷へ提出した文書には、「当社の大明神は：スサノヲ尊」「浮山を留めて垂れ潜む。故に、これを杵築大社と称す」との伝承が記され、鰐淵寺と出雲大社とで共通した神話が語られました。

スサノヲが仏教の聖地に由来する山塊を築き固めるといふ、まさに、中世の鰐淵寺と出雲大社との特別な関係を反映した神話と言えるでしょう。

ところで、中世の「もう一つの出雲神話」は、古代の「国引き神話」をベースにしたと言われることが多いのですが、それを立証できる史料はなく、必ずしもそうとは言えないでしょう。

中世の出雲では、『風土記』の伝承とは異なり、新たな神話が創出された事例もあります。例えば、加賀潜戸かかのくぼ（松江市島根町）について、『風土記』は佐太大神が生まれた場所とするのに対し、中世の『佐陀大社縁起』では天照大神が生まれます。

したがって、中世の「国引き神



話」も、原初的な漂流島伝承としての「浮浪山」説話や地名伝承としての「杵築」説話に靈鷲山やスサノヲの論理を組み合わせて創出された可能性も考えることができるといえるでしょう。

出雲は「神話のふるさと」などと例えられることがありますが、現在に伝わる「出雲神話」には古代のものだけではなく、中世あるいは近世に生まれたものもあります。

これら中近世の神話も当時の地域社会を反映した貴重な史料であり、今回の特別展でこれからの研究に対し、新たな視点を提示していきたいと考えています。

(高橋 周)

	平成25年	昨年	30年平均
ヒナの数(羽)	794	1,120	826
未孵化卵数(個)	349	618	382

●平成25年の孵化調査結果

30年平均を若干下回ったもののほぼ例年並みの孵化状況でした。平成25年4月の産卵調査では、観測以来2番目に卵の数が少ない状況でしたが、5月の気候が比較的温暖で安定したため順調に孵化が進んだようです。



平成25年5月20日 孵化調査

★指定文化財紹介⑦
国指定天然記念物

「ウミネコの繁殖地 経島」

島根県出雲市北西部に位置する経島は、大社町日御碕の西海上にあり、面積約4千㎡、お経の巻物を積み重ねたように見えることから、名付けられたと言われています。古くは日御碕神社の下の宮(日沉宮)があったため、日御碕神社の神域として一般の立ち入りが禁止されています。経島への上陸は、ウミネコ生態調査として特別に日御碕神社の許可を得ています。経島は、日本海西部におけるウミネコの代表的な繁殖地として、大正11年(一九二二)に国の天然記念物に指定されています。ウミネコ調査は、昭和46年(一九七二)(以降毎年3回実施しています。3月の飛来数調査(平均4千羽)、4月の産卵調査(限られた調査区の平均550個)、5月の孵化調査(平均800羽)です。ヒナが経島を巣立つのは例年7月頃です。全国的にも貴重であり、地域にも愛されるウミネコの繁殖地をこれからは保護していくため、調査を続けていきたいと考えています。

(伊藤靖浩)

★発掘調査の現場から⑦

「斐川中央工業団地、県道出雲三刀屋線の発掘調査を始めました」

出雲市文化財課では、毎年、市内の道路改良工事などの開発に伴う発掘調査を実施しています。平成25年度は斐川中央工業団地造成工事予定地内(出雲市斐川町直江)と県道出雲三刀屋線の道路改良工事予定地内(出雲市上塩冶町)の発掘調査を予定しており、両現場とも5月から発掘調査を開始しています。



斐川中央工業団地内で
検出した大溝(西から)

斐川中央工業団地には、杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群の遺跡が存在します。昨年度の調査では千四百年前ころの横穴墓群や

丘陵尾根上に大溝が見つかっていました。今年度は丘陵部を中心に約一万㎡の調査を予定しています。

また県道出雲三刀屋線の事業予定地が上塩冶横穴墓群の中に位置しているため、昨年8月から発掘調査を実施しています。今のところ南向き丘陵斜面に、千四百年前ころの横穴墓が7基見つかっており、今年度も引き続き横穴墓の調査を実施します。

両現場とも現地説明会を予定しています。今後の調査の進展には是非ご期待ください。

(景山真二)



県道出雲三刀屋線予定地内
発掘作業中

【ギャラリー展】

写真展

国の登録文化財

9月2日(月)まで

- 場所 2階ギャラリー
- 市内に点在する近世・近代の優れた建造物を美しい写真で紹介します。
- 写真 出雲日御碕灯台、いなさ会館、布崎変電所、一畑電鉄出雲大社前駅舎、石橋家住宅
- 無料

出雲大社正遷宮記念

写真展 国宝 出雲大社

7月22日(月)まで

- 場所 1階市民ギャラリー
- 国宝出雲大社本殿の修理中に、博物館の職員がとった、貴重な写真を公開しています。
- 無料

ショップに、新しくポストカードが仲間入りしました。
1枚 100円
4枚セット 300円



博物館イベントのご案内

◆「将棋フェスティバル」開催

- ▼ 7月28日(日)
- ▼ たいけん学習室
- ▼ プロ棋士指導対局
- ▼ 9時～12時
- ▼ 受付は当日先着順です。
- 8時30分～10時30分まで

「第3回里見香奈杯争奪

出雲弥生の森シニア将棋大会」

- ▼ 13時15分～17時
- 当日の見学は自由です。
- あわせて市内の高浜 遺跡から出土した日本最古の将棋盤を展示します。

◆弥生の森お月見コンサート

- ▼ 9月23日(月)18時～
- 秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。
- 弥生の森おまつ主催
- 前売券 500円
- (中学生以下無料)
- 8月上旬から発売予定。
- おたずねは、大津「コミュニケーションター」まで。

電話 210172

★館長コラム⑥



ご存じ「男はつらいよ」シリーズ第16作「葛飾立志篇」(75年)、寅さんが惚れてしまったヒロイン・礼子(榎山文枝)は、考古学者でした。彼女は大学の考古学研究室で助手をしています。

礼子が出勤するシーンをよく見ると、そこは間違いなく東京大学です。あの当時、東大の考古学研究室で助手をしていたのは私です。礼子のモデルは(男女の違いはあるけれど)私だった、と断言することができます(！)。

松竹から私に何の挨拶もなかったのは遺憾ですが、考古学者の間ではちよつとした話題になりました。横浜の遺跡でロケされた発掘調査のシーンには、友人がチラッと出ていますが、後で聞いたら、セリフ部分をカットされたと怒っていました。

礼子の師である教授役は国民的俳優・小林桂樹。痛々しいほどの変人考古学者を熱演しました。どうもあの頃は、考古学者は奇人変人の見本のように思われていた

節があり、そんな映画やドラマがたくさん作られています。

さて、私が寅さんファンクラブに入会したとき、島根県の会員はたった二人でした。91年にファンクラブ事務局から手紙が来て、「山陰がロケ地の候補になった。エキストラとして出演してもらうので、会員を増やしてほしい」という要請を受けました。そこで張り切って勧誘に努めたのですが、知事や市長らが誘致合戦を始めて政治問題化し、結局、この年の第44作「寅次郎の告白」は、鳥取県が舞台になってしまいました(涙)。

(渡邊貞幸)

(発行) 出雲弥生の森博物館 2013年7月
〒693-0011 島根県出雲市大津町 2760
(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617
(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
<http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料/無料 (特別展等観覧料を除く)
- 開館時間/9:00~17:00(入館 16:30 まで)
- 休館日/火曜日(祝日の場合は翌日)
- 特別開館/8/13(火)は開館します。